



活動イラスト



活動イラスト



活動イラスト

環境と調和して暮らし、働くまち あまがさき

# 尼崎市環境基本計画

## 【概要版】



活動イラスト



活動イラスト



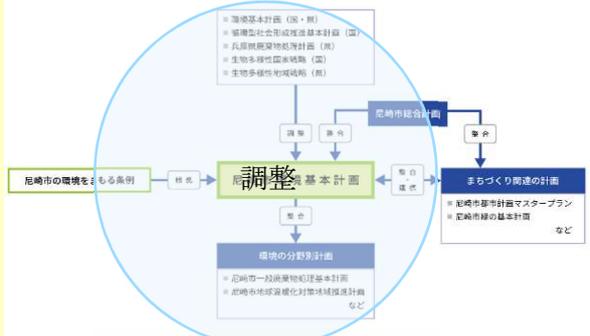
活動イラスト

## 尼崎市環境基本計画とは

尼崎市環境基本計画とは、尼崎市の環境をまもる条例第 6 条に基づき「良好な環境の確保に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画」として策定するものです。

国・兵庫県における上位計画や庁内における関連計画と連携・整合を図りつつ、尼崎市における最上位計画である尼崎市総合計画における「ありたいまち」を環境面から実現するものとします。

令和 6 年度から令和 15 年度までの 10 年間で計画期間とし、社会経済情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行います。



# 環境を取り巻く状況

環境を取り巻く状況は大きく変化しており、尼崎市だけでなく地球規模での問題への対応の必要性が増しているほか、環境・社会・経済に関する課題との統合的な解決が求められるようになっていきます。

本計画では次に示すような環境を取り巻く状況の変化も踏まえながら、取組を進めていきます。

## 脱炭素社会



- ・ パリ協定の採択により、低炭素社会ではなく**脱炭素社会**の実現を目指す動きが加速しており、政府も2050年までに**カーボンニュートラル**を目指すことを宣言しています。
- ・ 尼崎市では尼崎市気候非常事態行動宣言を表明し、2050年までに脱炭素社会を実現するとともに、2030年度における二酸化炭素排出量を半減(2013年度比)させることとしています。

## 循環型社会



- ・ プラスチックごみによる海洋汚染、食品ロスの発生などの問題が生じており、プラスチックの使用の抑制やプラスチック廃棄物の資源化、食品ロスの削減などを推進するための法律が施行されています。
- ・ 尼崎市では老朽化が進んでいるごみ処理施設の更新が控えており、新たな施設で処理できるごみ量となるようプラスチックごみ・食品ロスの削減や紙ごみの分別排出・リサイクルの取組を進めることとしています。

## 自然共生社会



- ・ 生物多様性の損失を止めるための新たな枠組として**昆明・モンテリオール生物多様性枠組**が採択され、国においてもこの枠組に対応した生物多様性国家戦略2023-2030を策定し、ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現に取り組んでいます。
- ・ 尼崎市では新たに**尼崎市生物多様性地域戦略**を策定し生物多様性の保全や持続可能な利用に取り組んでいくこととしています。

## 安全で快適な生活環境



- ・ 尼崎市では環境基準は改善傾向、または高い水準で維持されていることから、最新の科学的知見や環境に対するリスクなどの情報を収集し、基準への追加が検討されている物質や環境への影響が懸念される物質については調査研究していくこととしています。

## グリーン経済



- ・ ESG投資の動きが拡大しているほか、循環経済(サーキュラーエコノミー)やネイチャーポジティブ経済への移行、GX(グリーントランスフォーメーション)の実行などが求められています。
- ・ 尼崎市では環境経営の普及や環境関連産業の活性化などの事業者を対象とした取組だけでなく、エシカル消費など市民を対象とした取組を進めることで経済活動全般において環境配慮を進めていくこととしています。

## 環境・社会・経済の課題の統合的解決

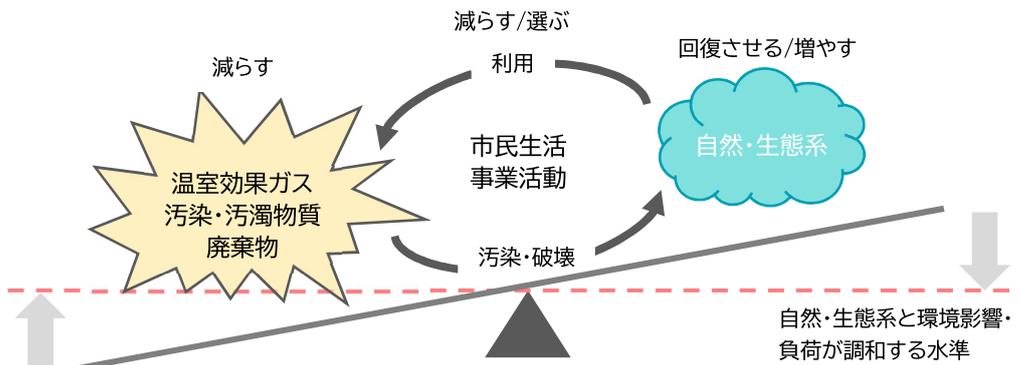


- ・ 環境・社会・経済を不可分なものとして調和させ、誰一人取り残すことなく、持続可能な世界を実現するための国際社会全体の普遍的な目標である**持続可能な開発目標(SDGs)**の達成に向けた取組が進められています。
- ・ 尼崎市ではまちづくりの羅針盤である**尼崎市総合計画**に基づく取組を推進することでSDGsの達成を目指しています。

# 尼崎市環境基本計画の改定にあたっての視点

経済発展により私たちの暮らしは豊かで便利となった一方で、人類が豊かに生存し続けるための基盤となる地球環境は限界に達しつつあるほか、資源の枯渇・不足といった問題も顕在化しています。これまでの可能な限り環境汚染・汚濁を軽減するという考え方で環境問題に取り組むのではなく、**環境・資源には限界があることを認識し、成熟した社会を目指す必要があります。**

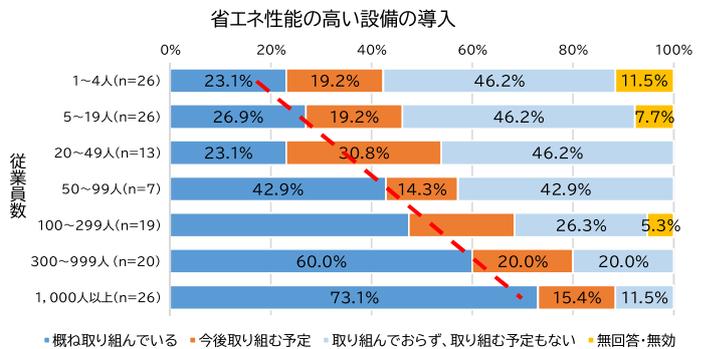
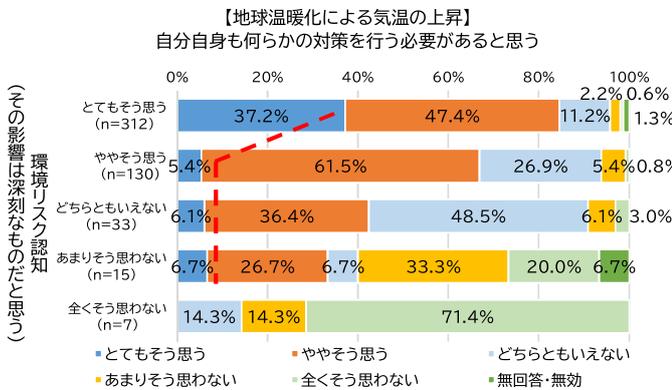
しかしながら、私たちが暮らし、働いていくためには自然・生態系から得ている資源・エネルギーの消費は必要不可欠であるため、社会経済活動によって生じてしまう**環境影響・負荷が自然・生態系の再生産・浄化能力を越えない範囲で環境と調和しながら暮らし、働いていく必要があります。**



## 尼崎市の現状

前計画において設定していた指標については悪化傾向にあるものではなく、改善傾向にある、または高い水準で維持されており、**尼崎の環境に関する取組については、一定の進捗があったといえます。**

一方で、環境を取り巻く状況への変化に対応していくためには、**社会・経済の変革が求められているものもあり、市民・事業者の幅広い理解・協力が必要となりますが、現状では環境意識の高い一部の市民や比較的規模の大きな事業者による取組に留まっているという課題があります。**



例：地球温暖化による気温の上昇に関するリスク認知と何らかの取組をしたいという態度の関係(市民)

※深刻なリスクだと思う人ほど取組の必要性を感じている。

例：従業員数と省エネ性能の高い設備の導入の関係(事業者)

※従業員数が多い事業者ほど取組の状況が高くなっている。

# 目指す環境像・目標体系

大量の資源・エネルギーの消費を前提としている現在の社会経済活動やライフスタイルは、繊細なバランスの上に成り立っている環境に負荷を与えており、その結果として気候変動や資源の枯渇、生物多様性の損失、汚染物質の排出など様々な環境問題を引き起こしています。

特に社会経済活動がグローバル化している現代においては、環境問題を地域だけの問題として捉えるだけでなく、地球規模の問題としても捉える必要があり、これまでの環境汚染・負荷を軽減していくという視点に加え、どのような資源・エネルギーをどのように消費していくのかという視点からの取組も行っていかなければなりません。

これらに取り組んでいくためには、一部の環境意識の高い市民・事業者だけが取り組むのではなく、かつて尼崎の市民・事業者・行政が互いに協力し、努力しながら深刻な公害問題に取り組んできた経験を踏まえ、私たち一人ひとりの意識・行動を変えていくことが環境問題の解決につながることを認識し、環境と調和したまちの実現を目指していくため、本計画において目指す環境像を次のとおり定めます。

## 目指す環境像

環境と調和して暮らし、働くまち  
あまがさき

## 目標体系

生活・生存の基盤を確保します

1 脱炭素社会の構築

2 循環型社会の構築

3 自然共生社会の構築

4 安全で快適な生活環境の保全

6 環境意識の向上・行動の輪の拡大

市民・事業者・市がそれぞれの役割を果たします

5 経済のグリーン化

尼崎らしさを活かしながら取り組みます

# 脱炭素社会の構築

2050年までに脱炭素社会を実現するために、二酸化炭素排出量とエネルギー消費量の削減、クリーンエネルギーの利用などに取り組むとともに、気候変動のリスクにも備えていく必要があります。



二酸化炭素排出量、エネルギー消費量は減少傾向にあります。

## 方針・施策

### 方針①

消費するエネルギーを削減・脱炭素化します

施策ア 地球温暖化を防止する行動の実践・定着  
 施策イ 省エネルギー型の設備・建築物の普及  
 施策ウ クリーンエネルギーの利用

### 方針②

エネルギー効率の高い都市に転換します

施策ア エネルギー管理の観点を活かしたまちづくり  
 施策イ 環境負荷の低い交通手段の利用・交通環境の整備

### 方針③

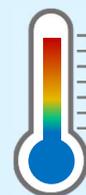
気候変動のリスクに備えます

施策ア 気候変動の影響・被害の理解・認識  
 施策イ 気温の上昇・降水パターンの変化への対応

## 関連ワード

### パリ協定

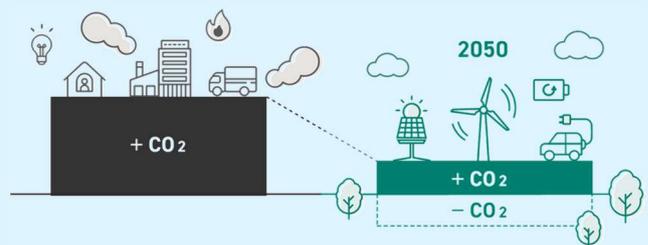
地球温暖化を防止するための2015年に採択された国際的な枠組み。世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2度より十分下方に抑え、さらに1.5度に抑える努力を追求することなどを世界共通の長期目標としており、発展途上国を含むすべての加盟国が、自国の温室効果ガスの排出削減目標を定めて実行し、5年ごとに国際的な評価を受けながら推進することなどが合意された。



5.7℃上昇 何も対策をしないとき  
 2℃上昇 パリ協定の目標  
 1.5℃上昇 努力すべき目標  
 1℃上昇 現在  
 産業革命以前の気温

### 脱炭素社会

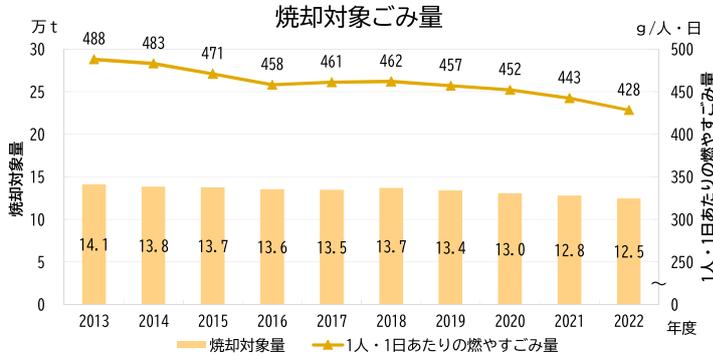
二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量を大幅に削減し、植林や森林管理等による吸収量と均衡して実質ゼロとなる「カーボンニュートラル」を実現する社会を脱炭素社会という。カーボンとは炭素のことで、地球温暖化問題では主に二酸化炭素を指す。ニュートラルとは中立という意味である。



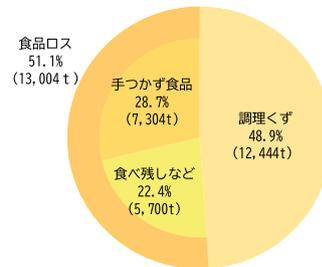
出典：環境省 脱炭素ポータルウェブサイト

# 循環型社会の構築

ごみ処理施設の更新に向け、新たな施設でも処理できるごみ量に減らすため、プラスチックごみ・食品ロスの削減や紙資源のリサイクルなどに取り組む必要があります。



生ごみの組成(2019年)



焼却対象ごみ量は減少傾向にあります。  
生ごみでは約半分が手つかず食品や食べ残しなどの食品ロスとなっています。

## 方針・施策

方針① ごみの発生を抑制します

- 施策ア リデュース・リユースの実践・定着
- 施策イ リサイクルの推進

方針② ごみを適正に処理します

- 施策ア 適正処理の更なる推進
- 施策イ 地域環境の美化

関連ワード

### プラスチックごみ問題

石油由来のプラスチックは、資源として限りがあること、ごみとして燃やすと二酸化炭素が排出されること、ポイ捨てなどによって海に流出すると、微細な破片となって海中に漂い海洋汚染を引き起こすことなどが問題となっている。プラスチックの過度な使用を抑制し、適切にリサイクルするしくみづくりが急務である。

### 食品ロス

まだ食べられるのに廃棄される食品を食品ロスといい、国民一人あたり毎日お茶碗約1杯分(約114g)の食べものが捨てられている。食品ロスを減らすために、計画的に食材を買い、作りすぎない等、食べ物を捨てないよう工夫することが大切である。また、未開封の保存食をフードドライブに寄付するなど、食品を必要とする人に届ける取組も進んでいる。



### 尼崎市の新しいごみ処理施設

令和13年度から新しいごみ処理施設が稼働する予定である。現在は第1工場、第2工場の2箇所でごみを処理しているが、新しいごみ処理施設では、市内のごみを1箇所に集約して処理する計画となっている。また、高効率なごみ発電を導入するなど環境面での性能も向上する見込みである。

# 自然共生社会の構築

私たちの暮らしが自然の恩恵によって成り立っていることを理解するとともに、都市化が進展している尼崎に残されている樹林や河川、農地、水路などの身近な自然を保全していく必要があります。



ニホンウナギを捕らえたカワウ

河川では水生生物だけでなく、河川敷も含めると植物、昆虫類、哺乳類、鳥類などを確認することができ尼崎を代表する自然環境です。



佐璞丘の樹林

尼崎に古くから存在していた樹林としては河川沿いに成立するエノキ・ムクノキから構成される河畔林があります。

## 方針・施策

### 方針①

生物多様性を理解し、自然からの恵みを活かします

- 施策ア 生物多様性への理解と配慮行動の実践・定着
- 施策イ 農地の保全・活用
- 施策ウ 自然を活用した社会課題の解決

### 方針②

生物の生息・生育場所を保全・創出します

- 施策ア 生物の生息・生育に配慮した緑地・水辺の保全・創出
- 施策イ 地域性に配慮した生物の生息・生育環境の保全

関連ワード

### 生物多様性

生物の多様さと生物のすみかとなる生態系の豊かさを表す言葉。「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つのレベルがある。

【生態系の多様性】  
様々なタイプの自然がある



【種の多様性】  
様々な種類の生物がいる



【遺伝子の多様性】  
同じ種類の生物でも様々な個性がある



### 昆明・モンテリオール生物多様性枠組

生物多様性に関する世界目標。2050年のビジョンとして「自然と共生する社会」を掲げるとともに、2030年ミッションとしてネイチャーポジティブを掲げ、その実現に向けた23個の目標が設定された。

### ネイチャーポジティブ（自然再興）

自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。日本でも、2030年のネイチャーポジティブの実現を目標として掲げている。

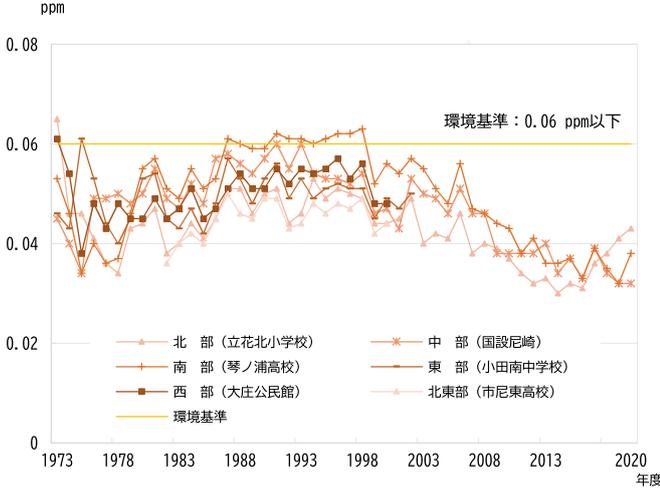
### 尼崎市生物多様性地域戦略

尼崎における生物多様性の保全・利用に関する方向性を取りまとめた計画。

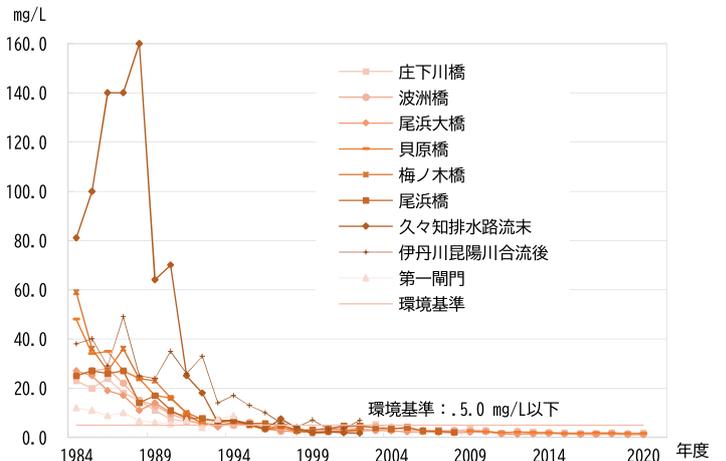
# 安全で快適な生活環境の保全

大気、水質、騒音・振動などは改善傾向にあります。環境が悪化していないことを確認するために、引き続き環境監視を行うほか、新たな環境リスクに備えるために情報収集などを行う必要があります。

二酸化窒素(一般環境大気) 日平均値の年間98%値



生物化学的酸素要求量(BOD)庄下川水系75%値



環境基準の達成率については、全体的には改善傾向、または高い水準で維持されています。

## 方針・施策

方針

空気・水・土・静けさを大切にします

- 施策ア 大気環境の保全
- 施策イ 水環境の保全
- 施策ウ 静けさの保全
- 施策エ 土壌・地盤環境の保全
- 施策オ 公害の歴史の継承・環境に関する情報発信
- 施策カ 有害物質・環境リスクへの対応

関連ワード

### 環境基準

大気汚染や水質汚濁、土壌汚染、騒音などについて、人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準を定めた行政上の政策目標。

### 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

大気汚染物質の一つ。物質が高温で燃えるときに発生する一酸化窒素が、大気中で酸化されて生成される。高濃度で呼吸器に好ましくない影響を与える。

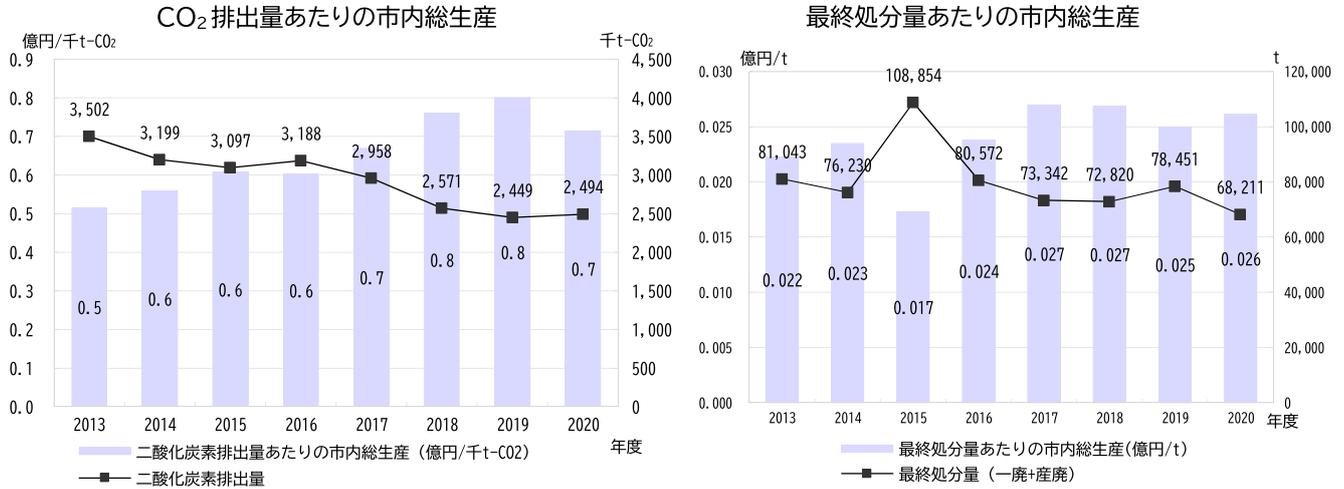
### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物の働きにより、水中の有機物質が分解されるときに消費される酸素の量。この値が高いほど、水中の有機物質が多く、水中の酸素が欠乏しやすい状態にあることを示す。

# 目標 5

## 経済のグリーン化

環境問題と経済活動には密接な関係があり、環境負荷の低減と経済成長を両立させる必要があります、事業活動だけでなく市民生活における消費の場面においても環境に配慮した行動が求められます。



経済規模を表す指標である市内総生産(市内で1年間に生産された価値の総額)と、経済活動によって影響を受ける環境要素の関係を見ると、二酸化炭素は、2019年度にかけて排出量が減少している中、排出量あたりの経済規模は増加しています。最終処分量では、2017年度以降、0.025~0.027億円/tで推移しています。

### 方針・施策

#### 方針①

環境配慮型のモノ・サービスを消費・普及します

施策ア 環境配慮型のモノ・サービスの消費  
 施策イ 環境配慮型のモノ・サービスの普及

#### 方針②

環境に配慮した事業活動をします

施策ア 環境配慮経営の実施  
 施策イ 環境影響評価制度の活用

### 関連ワード

#### ESG 投資

Environment(環境)や Social(社会)に配慮した事業を行い、適切な Governance(企業統治※)がなされている企業を評価し、投資すること ※法令遵守、コンプライアンスの強化、経営の透明性など

#### 循環経済 (サーキュラーエコノミー)

資源消費をできる限り小さくし、資源・製品の価値をできる限り高める、廃棄物の発生抑止を目指す経済活動

#### ネイチャーポジティブ経済

生物多様性の損失を止め、反転させることに資する経済活動

#### GX (グリーントランスフォーメーション)

産業競争力の向上と脱炭素の実現に向けた経済システム全体の変革に向けた取組

#### エシカル消費

人や社会、環境、地域など周囲に配慮した消費行動を行うこと  
 (例)地産地消、食品ロスの削減、環境配慮商品の購入など

# 環境意識の向上・行動の輪の拡大

一部の環境意識の高い市民・事業者だけが環境問題に取り組むのではなく、幅広い主体と協力・連携しながら、様々な場面に環境の視点を取り入れながら取り組んでいく必要があります。また、知識を行動に移していく必要があります。

あまがさき環境オープンカレッジの参加者数・市内でおこなわれた講座数



NPO 法人あまがさき環境オープンカレッジを中心として、市民・学校・事業者・市の協働のもと、環境に関するイベントや講座が多数行われています。

## 方針・施策

### 方針①

環境問題を知り、行動します

- 施策ア 効果的・効率的な情報提供・交換
- 施策イ 関心・理解の度合いやライフスタイルに応じた環境学習・啓発の実施
- 施策ウ 環境教育の充実
- 施策エ 環境保全活動の支援
- 施策オ 環境保全活動の担い手の発掘・育成

### 方針②

多様な主体と連携し、様々な場面に環境の視点を取り入れます

- 施策ア 多様な主体との連携・ネットワークの拡大
- 施策イ マルチベネフィットを意識した取組の実践

### 関連ワード

#### 持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた世界目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する統合的な取組が示されている。



SDGsの17のゴール

#### 尼崎市総合計画

尼崎市を将来どのようなまちにしていくのか、どうやって実現していくのかをまとめた、尼崎市の基本となる最上位の計画。尼崎市がめざす「ありたいまち」の姿を示す「まちづくり構想」と、これを実現させるための取組の方向性などを示す「まちづくり基本計画」で構成される。



# 指標の一覧

計画の目標の達成度合いを確認するための指標は、以下のとおりとします。

	指標	基準	目標
目 標 1	二酸化炭素排出量(kt-CO <sub>2</sub> )	3,502 (H25)	1,737 (H25比50%減) (R12)
	エネルギー消費量(TJ)	37,990 (H25)	26,752 (R12)
	太陽光発電設備導入量(kW)	1.9万kW (R3)	4万kW (R12)
	地球温暖化を防止するための行動を実践している市民の割合(%)	48.9 (R3)	70.0 (R15)
	地球温暖化による危機を認識している市民の割合(%)	34.2 (R3)	61.5 (R15)
目 標 2	焼却対象ごみ量(t)	134,041 (R1)	119,501 ※R1比11%減 (R12)
	1人1日あたりの燃やすごみ量(g/人・日)	457 (R1)	410 ※R1比10%減 (R12)
	事業系ごみ量(t)	51,133 (R1)	46,020 ※R1比12%減 (R12)
	廃棄物処理に係る不利益処分等の件数(件)	0 (R3)	0 (R9)
	ごみを発生させない取組を行っている市民の割合(%)	29.4 (R3)	50.0 (R15)
目 標 3	生物多様性の認知度(%)	35.9 (R4)	50.0 (R15)
	確認された種の数(種)	集計中 (R4・5)	現状より増やす (R15)
	自然観察や自然保護活動に参加している市民の割合(%)	0.8 (R4)	4.0 (R15)
目 標 4	大気汚染に関する環境基準の達成率(%)	96.8 (R3)	100 (R15)
	水質汚濁に関する環境基準の達成率(%) (河川・海域)	97.1 (R3)	100 (R15)
	騒音に関する環境基準の達成率(%) (自動車)	98.2 (R3)	100 (R15)
	騒音に関する環境基準の達成率(%) (新幹線)	100 (R3)	100 (R3)
	騒音に関する環境基準の達成率(%) (航空機)	100 (R3)	100 (R3)
	行政処分件数(件)	0 (R3)	0 (R9)
目 標 5	過去に比べ公害が問題ではないと考える市民の割合(%)	49.7 (R4)	現状より改善する
	二酸化炭素排出量あたりの市内総生産(億円/kt-CO <sub>2</sub> )	0.71 (R2)	現状より改善する
目 標 6	最終処分量あたりの市内総生産(億円/t)	0.026 (R2)	現状より改善する
	あまがさき環境オープンカレッジの開催する講座・イベントへの参加者数(人)	2,400 (過去8年間の平均値)	2,400以上を維持 (R6~R15)
	あまがさき環境オープンカレッジの開催する講座・イベントにおいて実際されるアンケート結果のうち「これから実際にやってみたいことがみつかった」人の割合(%)	39.6 (R4)	50.0 (R15)
	あまがさき環境教育プログラム実施校(校)	20 (R3)	41(全校) (R9)
	環境に関する学習・イベントに参加している市民の割合(%)	1.8 (R3)	8.0 (R15)